

#### SI-2 A-A' ~ D-D'

- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量、白色粘土少量含有。
- 暗黄褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。燒土粒極少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。燒土粒極少量、上部に赤褐色土（鉄分？）含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒・白色粘土少量、燒土粒微量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粘土少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。燒土粒、白色粘土少量。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。侵食を受けた地山。

- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。

#### SI-2 SK1 F-F'

- 黒褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。

#### SI-2 P1-3-5

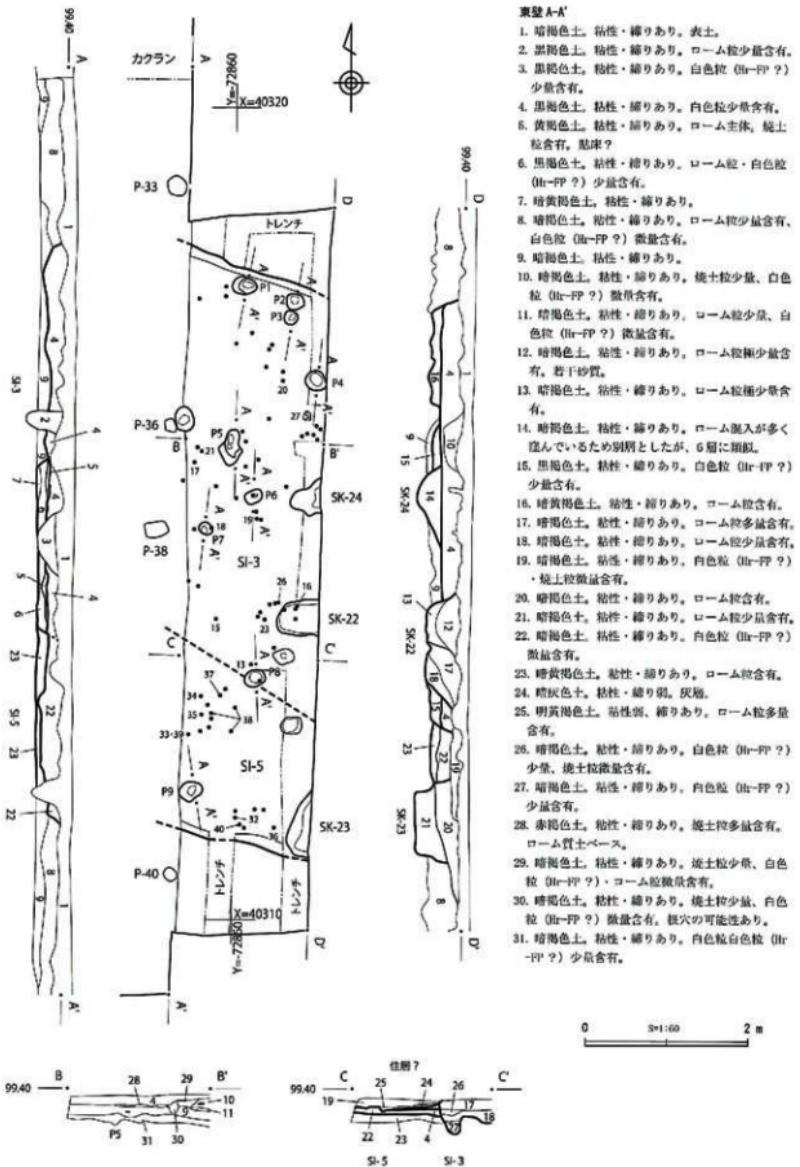
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。

第7図 SI-2断面図

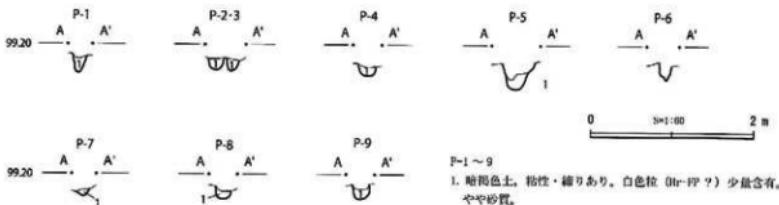
認められないことから、既に床面のほとんどは壊された状態であった可能性もある。周溝：幅10～15×深さ3から10cm程の溝が全周する。覆土：ローム粒含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。掘り方：全体的に④層下の暗黄褐色粘質土（水成ローム？）が露呈する小さな凹凸が全面に認められた。しかし、床面との差はほとんどなく掘り方、あるいは水成ロームの露呈状況を示すものの判断が難しいため図化せず、写真に記録するに止めた。遺物：掲載遺物8点。全体に散らばった出土状況を示すが、特にSK1・P6付近に残存率の高い大型破片がまとまって出土している。所見：搅乱、SI-4による損壊が激しいが、造構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。

#### SI-3 (構造: 第8図、図版2・3／遺物: 第20・21図、第4表、図版5・6)

重複: SI-5を切っている。形態・確認規模: 東側は調査区外へ拡がっており、西側は土質の差異が認められず、表土掘削時に削平してしまったことから不確定ではあるが、方形と推定される。壁が確認できた南北は4.8m、東西残存値は1.6m、深さ22cmを測る。主軸方向: N-20°-E。柱穴: 柱穴と断定できるものはないが、ピットが数基検出された。床面: 土層断面において床面らしき層が部分的に認められたが、面的には明瞭な床面を検出することはできなかった。ただし、土層断面観察から判断するとほぼ平坦な床が造られていたことが考えられる。覆土: ローム粒含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。掘り方: 全体的に④層下の暗黄褐色粘質土（水成ローム？）が露呈する小さな凹凸が全面に認められた。しかし、床面との差はほとんどなく掘り方、あるいは水成ロームの露呈状況を示すものの判断が難しいため図化せず、写真に記録するに止めた。



第8図 SI-3-5 造構図



第9図 SI-3-5断面図

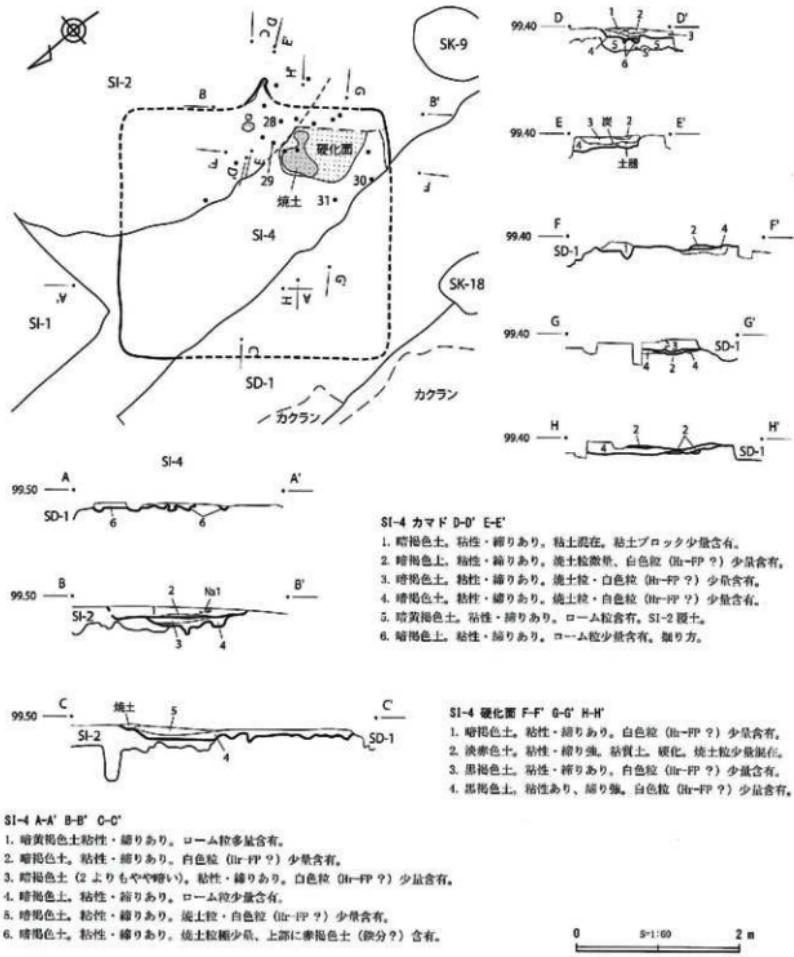
**遺物**：掲載遺物 14 点（別に被熱石 1 点は写真掲載のみ）。部分的にまとまって出土している傾向が見られ、綠釉陶器皿（23）、灰釉陶器耳皿（21・22）を含む施釉陶器の割合が比較的高いことが特出される。所見：遺構形態は不明瞭であるが、出土遺物から 10 世紀代の住居と推定される。SI-5 と覆土上、出土遺物とも明瞭な差ではなく、土層観察において新旧関係を判断した。

#### SI-4（造構：第 10 図、図版 3／遺物：第 22 図、第 4 表、図版 5-6）

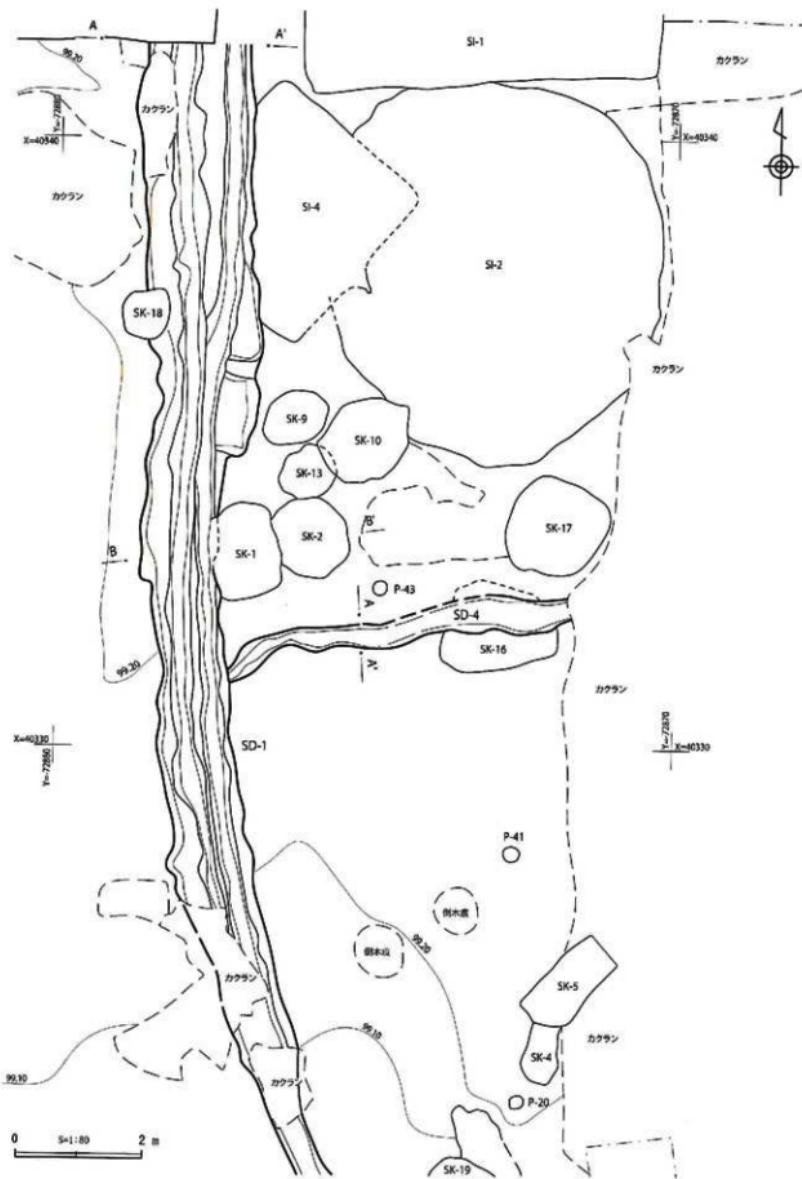
**重複**：SD-1 に切られ、SI-2 を切っている。形態・確認規模：西側は SD-1 に切られているが、方形と推定される。東西 3.2 × 南北 3.3 m、深さ 40 cm を測る。主軸方向：N-130° -E。カマド：東壁南寄り検出されたが、損壊が激しく僅かに焼土が検出されたのみである。床面：南東隅に硬化面とが認められたが、全体的に明瞭な床面を検出することはできなかった。覆土：ローム粒含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。掘り方：全体的に④層下の暗黄褐色粘質土（水成ローム？）が露呈する小さな凹凸が全面に認められた。しかし、床面との差はほとんどなく掘り方、あるいは水成ロームの露呈状況を示すもののかの判断が難しいため図化せず、写真に記録するに止めた。遺物：掲載遺物 4 点。カマド手前にまとまって出土している。所見：擾乱、SD-1 による損壊が激しいが、遺構形態・出土遺物から 10 世紀代の住居と推定される。

#### SI-5（造構：第 8-9 図、図版 2-3／遺物：第 22 図、第 4 表、図版 5-6）

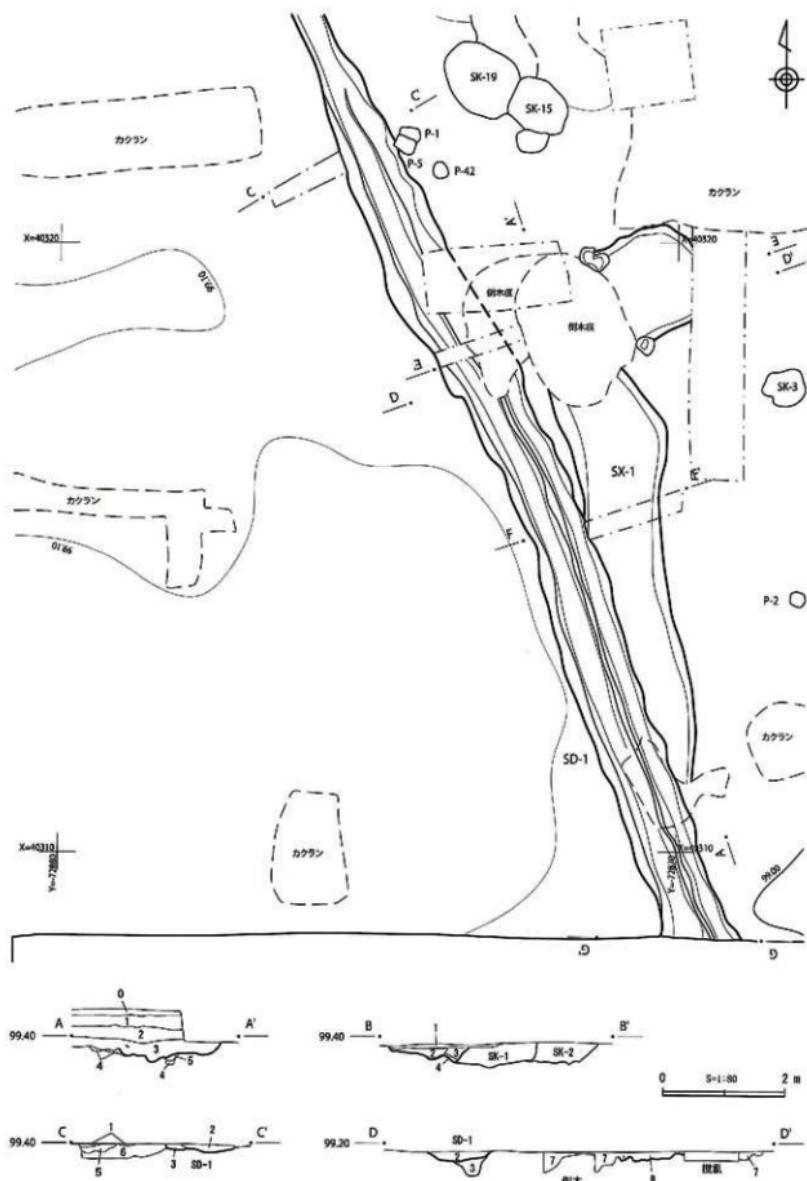
**重複**：SI-3、SK-23 に切られている。形態・確認規模：北側は SI-3 に切られ、東側は調査区外へ拡がっており、西側は表土掘削時に削平してしまったことから不明である。確認規模は南北 2.0 × 東西 1.6 m、深さ 28 cm 程を測る。主軸方向：N-15° -E。柱穴：柱穴と断定できるものはないが、P9 が検出された。床面：平面、土層断面ともに明瞭な床面を検出することはできなかったが、遺物の出土状態から床面を推定した。覆土：ローム粒含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。掘り方：全体的に④層下の暗黄褐色粘質土（水成ローム？）が露呈する小さな凹凸が全面に認められた。しかし、床面との差はほとんどなく掘り方、あるいは水成ロームの露呈状況を示すもののかの判断が難しいため図化せず、写真に記録するに止めた。遺物：掲載遺物 9 点、部分的にまとまって出土している傾向が見られ、内黒土器（39・40）が特出される。所見：遺構形態は不明瞭であるが、出土遺物から 10 世紀代の住居と推定される。SI-3 と覆土上、出土遺物とも明瞭な差ではなく、土層観察において新旧関係を判断した。



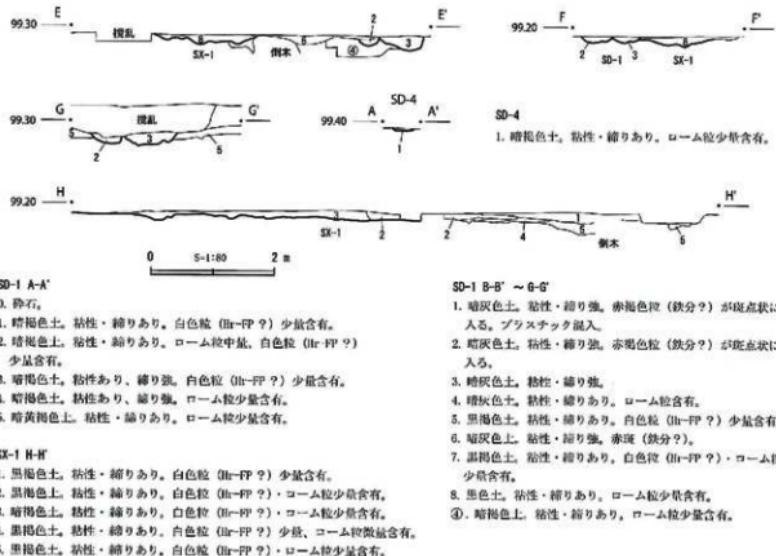
第 10 図 SI-4 造構図



第11図 SD-1-4造構図



第12図 SD-1、SX-1 造構図



第13図 SD-1-4, SX-1断面図

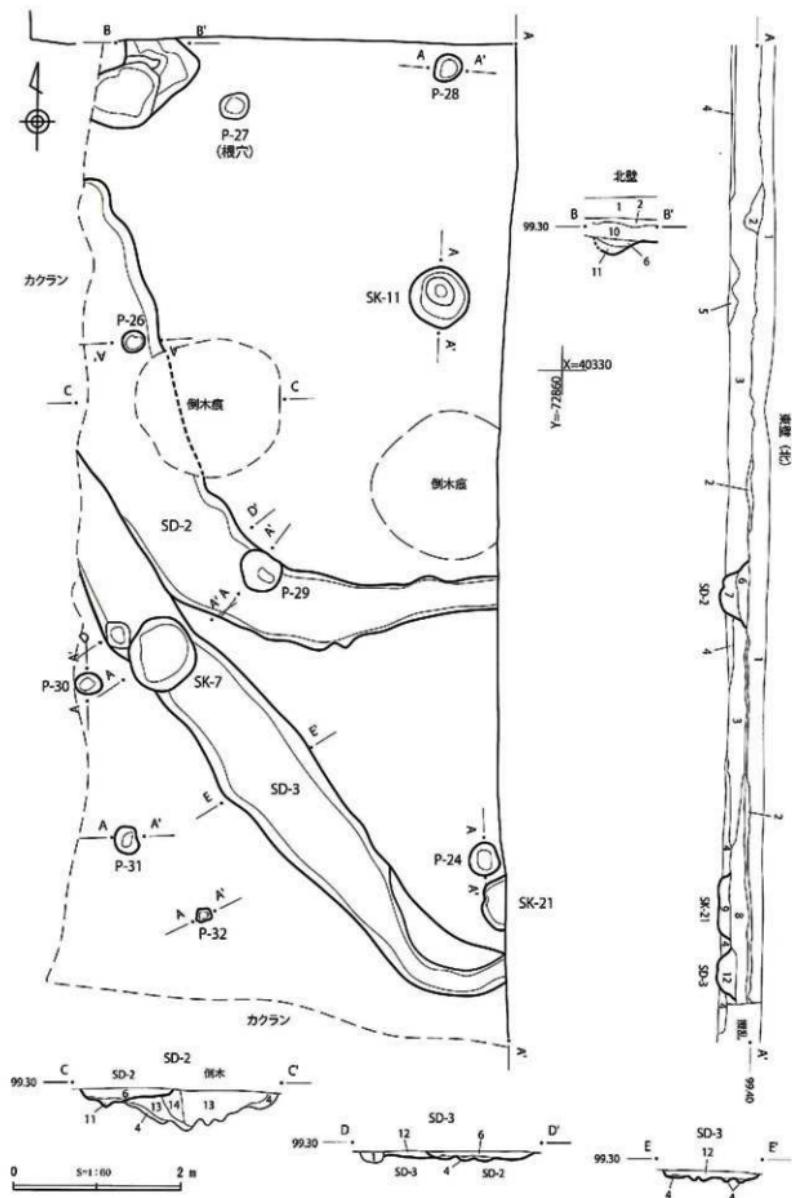
## 第2節 溝 (SD)

SD-1 (構造: 第11・12・13図、図版4／遺物: 第23図、第4表、図版9)

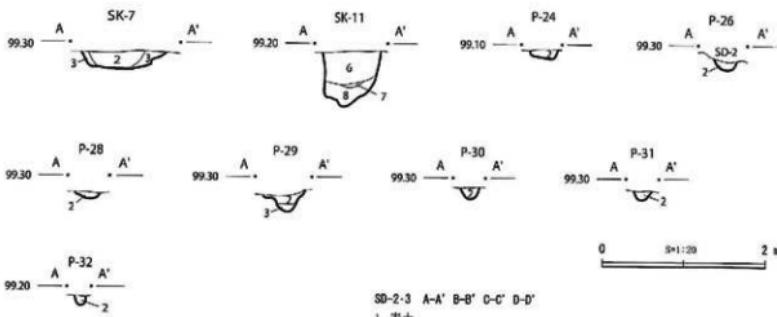
**重複:** SI-4, SK-1-18, SX-1を切る。SD-4との関係は不明。走向: 調査区中央西寄りに確認された。地形の変化点に掘られた溝で、東側の微高地と西側の低地の境を北から南へ指向する。ほぼ同位置を数条の溝が走向しているが、覆土に大きな差はなく区分した調査は行っていない。断面形状は皿状を成す。**確認規模:** 全体では走長34.2×幅0.6~1.8m、深さ10~30cm程を測るが、幅0.8m程の単体溝が重なって走行している状態であろう。**走向方位:** N-0~20°-W。覆土: 赤褐色粒(鉄分?)含有暗灰色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。**遺物:** 掲載遺物6点。いずれも覆土中からの出土で重複、隣接する溝から流れ込んだものと考えられる。**所見:** 時期判断は難しいところであるが、SI-4を切っていることから10世紀以降であることは間違いない。出土遺物から判断すると近世の可能性が高い。土層観察では少なくとも2条の溝が確認でき、覆土に差がないことから一定期間存続した溝と推測される。

SD-2 (構造: 第14図、図版5)

**重複:** SD-3、P-26-29、倒木を切る。**走向:** 調査区東端北寄りに確認された。西側は擾乱に切られ、東側は調査区外へ延び、L字状の走行を示す。断面形状は皿状を成す。**確認規模:** 走長8.4×幅0.4~1.2m、深さ10~20cm程を測る。**走向方位:** N-23°W~N-93°-E。覆土: 白色粒 (Hr-FP?) 含有黒褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。**遺物:** 出土遺物なし。**所見:** 性格、時期ともに不明である。



第14図 SD-2-3, SK-7-11-21, P-24-26～32 造構図



#### SK-P

- 暗灰色土。粘性弱、繊り強。ローム粒少量含有。
- 黒褐色土。粘性あり、繊り弱。
- 黒褐色土。粘性あり、繊り弱。ローム粒少量含有。
- 褐褐色土。粘性あり、繊り強。白色粒少量含有。
- 暗黄褐色土。粘性あり、繊り弱。ローム粒少量含有。

#### SK-11

- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。  
鉄分と思われる赤斑あり。
- 暗黃褐色土。粘性・繊りあり。ローム質。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。

#### SD-2-3 A-A' B-B' C-C' D-D'

- 表土。
- 表土層移接。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 含有。
- 暗黃褐色土。粘性・繊りあり。
- 暗黃褐色土。粘性・繊りあり。ローム (例木による反映)。
- 黒褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少低含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒・白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒・白色粒 (Hr-FP ?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム・地山。

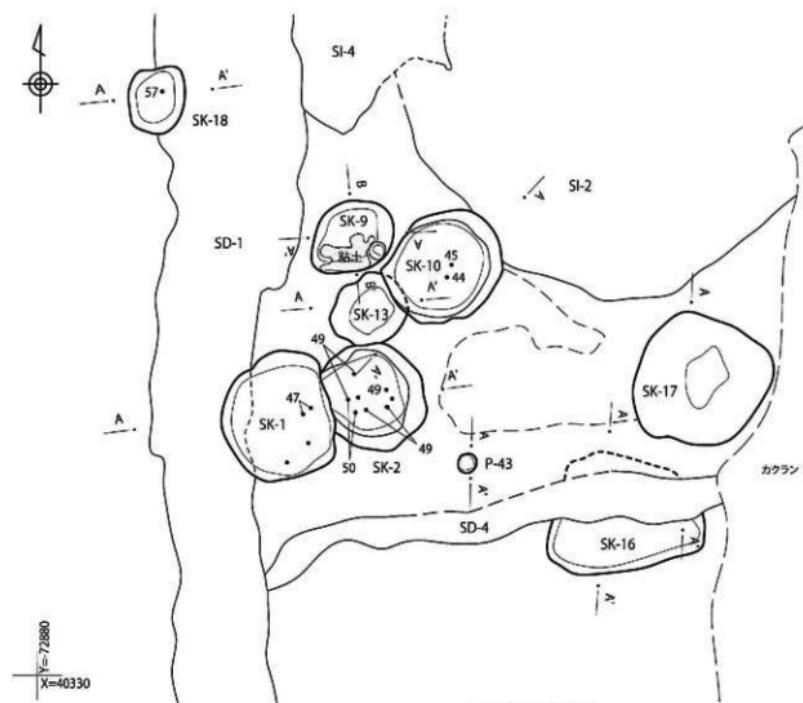
第 15 図 SK-7-21, P-24 ~ 32 断面図

#### SD-3 (構造: 第 14 図、図版 4)

**重複:** SD-2 に切られる。SK-7 との新旧関係は不明瞭。 走向: SD-2 を南へ平行移動させたように L 字状の走行を示す。断面形状は皿状を成す。 確認規模: 走長 8.4 × 幅 0.4 ~ 1.2 m、深さ 10 ~ 20 cm 程を測る。 走向方位: N-39° W ~ N-93° -E。 覆土: ローム粒・白色粒 (Hr-FP ?) 含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。SD-2 覆土と差はほとんどない。 遺物: 出土遺物なし。 所見: 性格、時期ともに不明である。

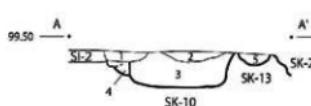
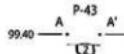
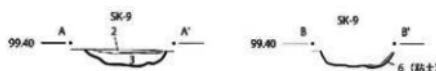
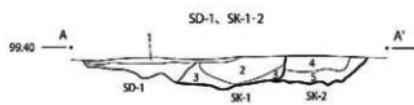
#### SD-4 (構造: 第 14 図)

**重複:** SK-16, SD-1 との新旧関係は不明瞭。 走向: SI-2 の南側土坑群の南端部を東西に走向する。 西側は SD-1 に接し、東側は搅乱に破壊されている。断面形状は皿状を成す。 確認規模: 走長 5.7 × 幅 0.4 ~ 0.5 m、深さ 5 cm 程を測る。 走向方位: N-81° -E。 覆土: ローム粒含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。 遺物: 出土遺物なし。 所見: 性格、時期ともに不明である。



SD-1, SK-1-2-9, P-43

1. 暗褐色土。粘性・繊りあり。鉄分と思われる赤褐色粒が斑点状に入る。プラスチック混入。
2. 黒褐色土。粘性・繊りあり。
3. 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
4. 黑褐色土。粘性・繊りあり。5より明るい。
5. 黑褐色土。粘性・繊りあり。
6. 淡赤褐色土。粘性強・繊りあり。粘土。



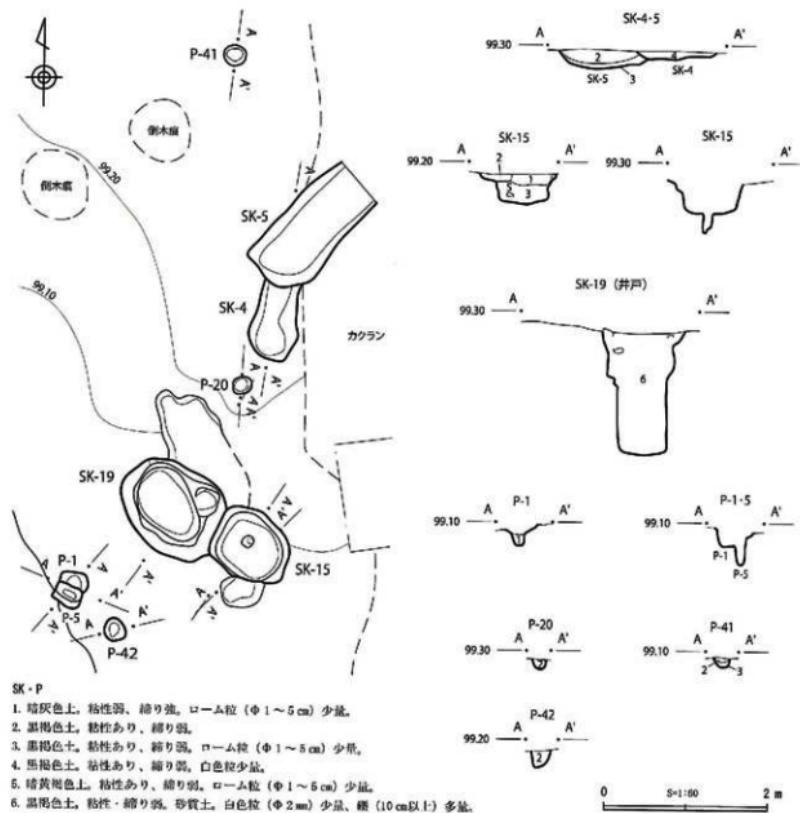
SK-13

1. 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。
2. 暗褐色土(1層よりも若干薄色)。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。

1. 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒少量含有。
2. 暗褐色土。粘性・繊りあり。純上粒、白色粒少量。
3. 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量。
4. 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。侵食を受けた地山？
5. 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。

第16図 SK-1-2-9-10-13-16~18, P-43 造構図

0 S=1:60 2 m



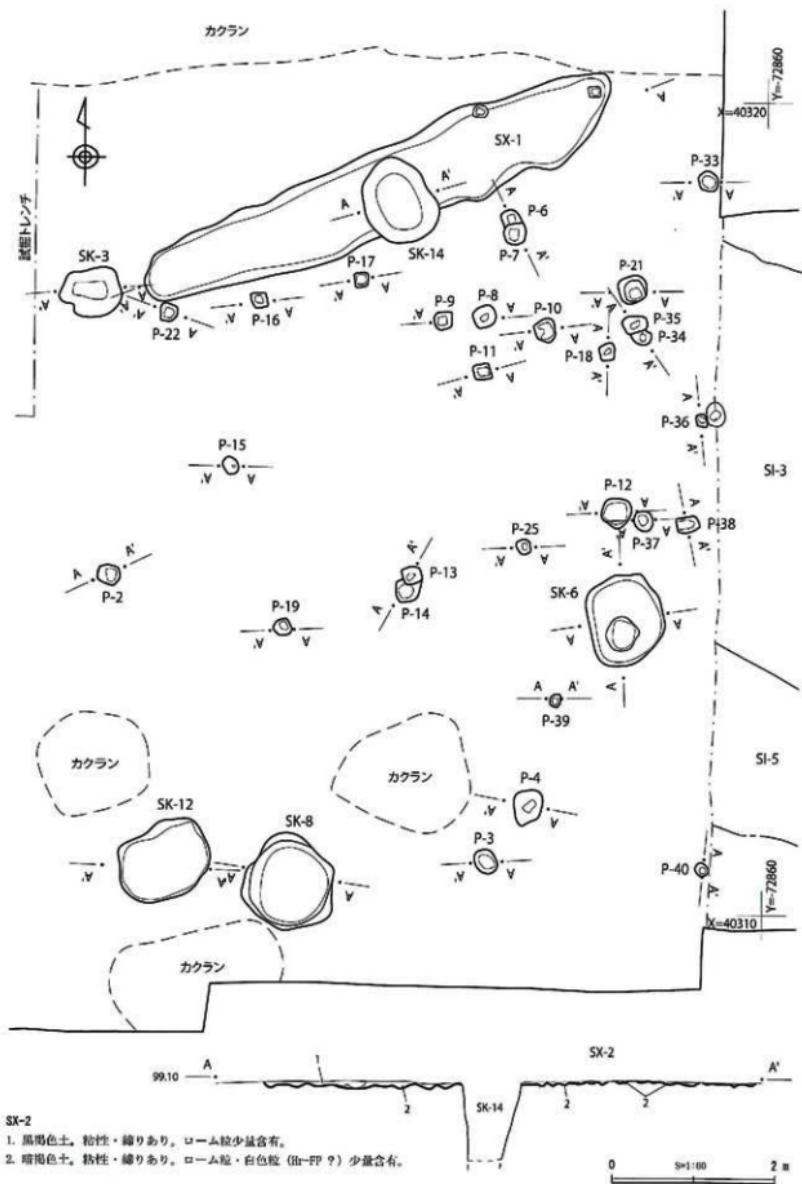
第 17 図 SK-4-5-15-19、P-1-20-41-42 造構図

### 第 3 節 土坑 (SK) (造構: 第 5-8-14～19 図、第 2 表、図版 5-6 / 遺物: 第 23-24 図、第 4 表、図版 9)

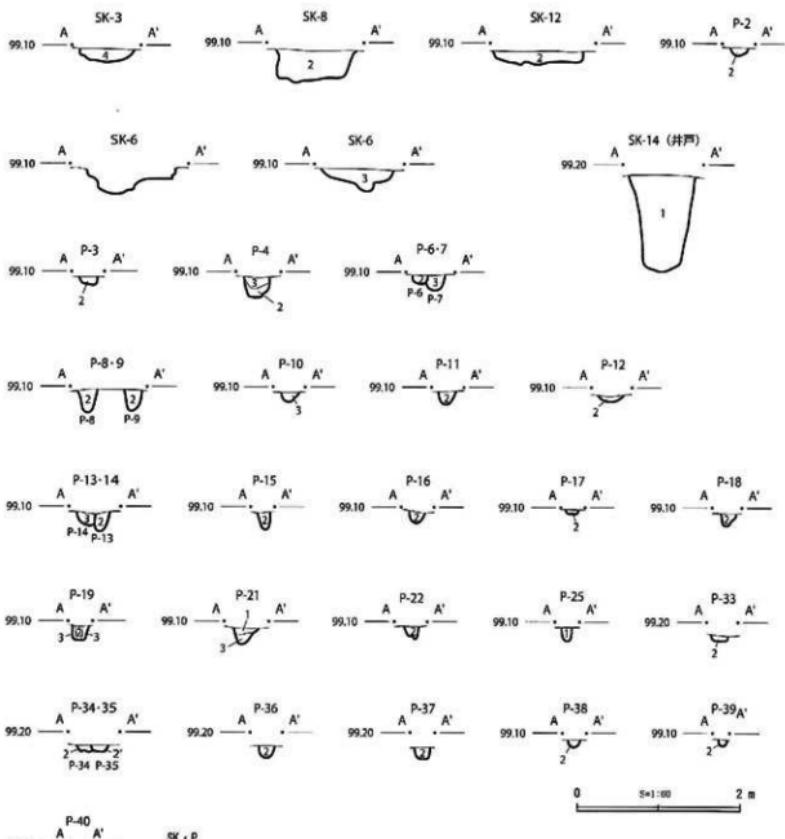
調査区の微高地部分全域に散在し、24 基が検出された。しかし、性格・時期が判断できるものは僅かで、そのほとんどが性格・時期とも不明である。各造構の概要は第 2 表にまとめたが、推定時期については数少ない出土遺物から判断したもので、断定することは難しいところである。

### 第 4 節 ピット (P) (造構: 第 5-14～19 図、第 3 表)

調査区の微高地部分全域に散在し、42 基が検出された。しかし、性格・時期とも、そのほとんどが不明である。各造構の概要は第 3 表にまとめた。



第18図 SK-3-6-8-12-14, P-2 ~ 4-6 ~ 19-21-22-25-33 ~ 40 造構図



第19図 SK-3・6・8・12・14、P-2～4・6～19・21・22・25・33～40断面図

第2表 土坑(SK)一覧表

(重複: &lt;=より古、&gt;=より新 / 計測単位: cm)

番号	重複	形 状		確認規模			方 位	推定期	備 考	特徴
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				
1	< SD-1, > SK-2	円形	箱形	154	141	41	-	鶴文中層	縄文土器片出土	17
2	< SK-1, 不明 SK-13	円形	逆台形	133	131	34	-	鶴文中層	縄文土器片多段出土	16
3	-	円形	皿状	72	62	17	-	不明	出土遺物なし	18-19
4	> SK-5	楕円形	皿状	102	61	10	N-9° -E	不明	出土遺物なし	17
5	< SK-4	長方形	皿状	167	84	23	N-45° -E	不判	出土遺物なし	17
6	-	楕丸方形	有段箱形	108	100	32	N-13° -W	平安?	土師器片出土	18-19
7	不明瞭 SK-4	円形	逆心形	91	81	22	-	不明	出土遺物なし	14-15
8	-	円形	箱形	110	105	41	-	鶴文中層	縄文土器片出土	18-19
9	-	円形	皿状	100	100	20	-	不明	壁から底面に粘土貼付け 上師器片出土	16
10	> SK-13	円形	箱形	150	130	43	N-43° -E	平安?	須恵器片出土	16
11	-	円形	有段筒形	75	73	69	-	不明	川上遺物なし	14-15
12	-	楕丸方形	箱形	117	92	17	N-66° -E	不明	出土遺物なし	18-19
13	< SK-10, 不明 SK-2	円形	皿状	96	90	17	-	平安?	土師・須恵器片出土	16
14	> SK-2	楕円形	筒形	106	86	119	N-22° -E	現代	井戸・溝に利用していた(近隣の情報) 出土遺物なし	18-19
15	不判 SK-19	楕円形	有段箱形	103	85	65	N-62° -E	平安?	土師器片出土 SK-19付隨窓設?	17
16	不明瞭 SD-4	台形	皿状	193	151	12	-	不明	土師器片出土	16
17	-	円形	半球形	158	154	47	-	平安?	土師器片出土	16
18	< SD-1	楕円形	逆台形	83	69	45	K-2° -E	鶴文中層	縄文土器片出土	15
19	不明瞭 SK-15	楕円形	筒形	138	108	153	N-38° -W	平安後平	井戸 須恵・土師器、瓦、石製品出土	17
20	> SI-1	円形	箱形	111	109	53	-	平安?	須恵・土師器、灰釉陶器、縄文土器片出土	5
21	-	-	逆台形	67	-	24	-	不明	出土遺物なし 東側は調査区外	14
22	> SI-3	-	逆台形	-	46	37	-	不明	出土遺物なし 東側は調査区外	8
23	> SI-5	-	逆台形	-	-	44	-	不明	出土遺物なし 東側は調査区外	8
24	< SI-3	-	-	-	-	30	-	不明	出土遺物なし 東側は調査区外	8

第3表 ピット(P)一覧表

(重複: &lt;=より古、&gt;=より新 / 計測単位: cm)

番号	重複	形 状		確認規模			方 位	推定期	備 考	特徴
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				
1	不明 P-5	-	-	35	-	26	-	不明	出土遺物なし P-5掘り方?	17
2	-	円形	U字状	25	24	10	-	不明	出土遺物なし	18-19
3	-	円形	U字状	29	28	10	-	不明	出土遺物なし	18-19
4	-	楕円形	U字状	43	35	25	-	不明	出土遺物なし	18-19
5	不明 P-1	方形	筒形	36	26	46	N-67° -W	不明	出土遺物なし 桁穴?	17
6	> P-7	-	U字状	27	-	11	-	不明	出土遺物なし	18-19
7	< P-6	円形	U字状	27	27	19	-	不明	出土遺物なし	18-19
8	-	円形	筒形	28	28	28	-	不明	出土遺物なし 桁穴?	18-19
9	-	円形	筒形	22	22	26	-	不明	出土遺物なし 桁穴?	18-19
10	-	円形	U字状	29	26	12	-	不明	出土遺物なし	18-19
11	-	方形	U字状	21	19	16	-	不明	出土遺物なし	18-19
12	-	方形	皿状	37	36	8	-	不明	出土遺物なし	18-19
13	> P-14	円形	筒形	24	22	24	-	不明	出土遺物なし 桁穴?	18-19
14	< P-13	円形	皿状	31	28	17	-	不明	出土遺物なし P-13掘り方?	18-19
15	-	円形	U字状	21	19	21	-	不明	出土遺物なし	18-19
16	-	方形	U字状	21	18	15	-	不明	出土遺物なし	18-19

(重複：&lt;=より古。&gt;=より新 / 計測単位：cm)

番号	重複	形 状		確認規模			方 位	推定時期	備 考	押 固
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				
17	-	方形	U字状	18	17	5	-	不明	出土遺物なし	18・19
18	-	方形	U字状	22	19	15	-	不明	出土遺物なし	18・19
19	-	円形	筒形	23	20	18	-	不明	出土遺物なし 柱底あり	18・19
20	-	円形	U字状	23	21	13	-	不明	出土遺物なし	17
21	-	方形	U字状	34	33	20	-	不明	出土遺物なし	18・19
22	-	方形	U字状	22	20	15	-	不明	出土遺物なし	18・19
23	欠	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	-	円形	皿状	40	37	11	-	不明	出土遺物なし	14・15
25	-	円形	U字状	18	18	16	-	不明	出土遺物なし	18・19
26	< SD-2	円形	U字状	27	26	14	-	不明	出土遺物なし	14・15
27	柱穴	-	-	-	-	-	-	-	-	14・15
28	-	円形	皿状	34	33	8	-	不明	出土遺物なし	14・15
29	< SD-2	円形	U字状	51	50	26	-	不明	出土遺物なし	14・15
30	-	円形	U字状	18	16	12	-	不明	出土遺物なし	14・15
31	-	箱円形	U字状	33	29	11	-	不明	出土遺物なし	14・15
32	-	円形	U字状	29	25	14	-	不明	出土遺物なし	13・14
33	-	円形	箱型	24	23	8	-	不明	出土遺物なし	18・19
34	< P-35	円形	-	26	18	8	-	不明	出土遺物なし	18・19
35	> P-34	方形	-	31	22	8	-	不明	出土遺物なし	18・19
36	-	方形	U字状	16	14	14	-	不明	出土遺物なし	18・19
37	-	円形	U字状	24	23	14	-	不明	出土遺物なし	18・19
38	-	方形	U字状	29	20	9	-	不明	出土遺物なし	18・19
39	-	円形	U字状	16	13	8	-	不明	出土遺物なし	18・19
40	-	円形	U字状	17	16	6	-	不明	出土遺物なし	18・19
41	-	円形	U字状	27	25	12	-	不明	出土遺物なし	17
42	-	円形	U字状	28	25	21	-	不明	出土遺物なし	17
43	-	円形	筒形	23	23	13	-	平安?	土師器片出土	16
44	不明 SI-1	円形	箱型	31	30	19	-	不明	出土遺物なし	5

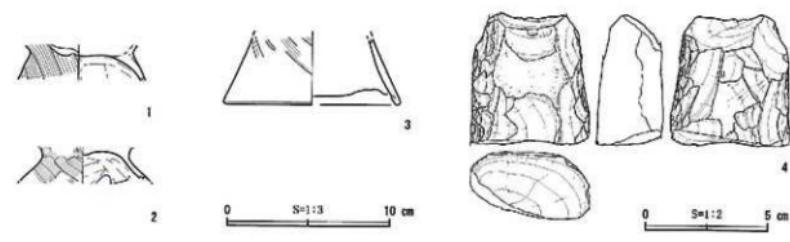
## 第5節 性格不明遺構 (SX)

SX-1 (造構：第14図、図版6／遺物：第25図、第4表、図版9)

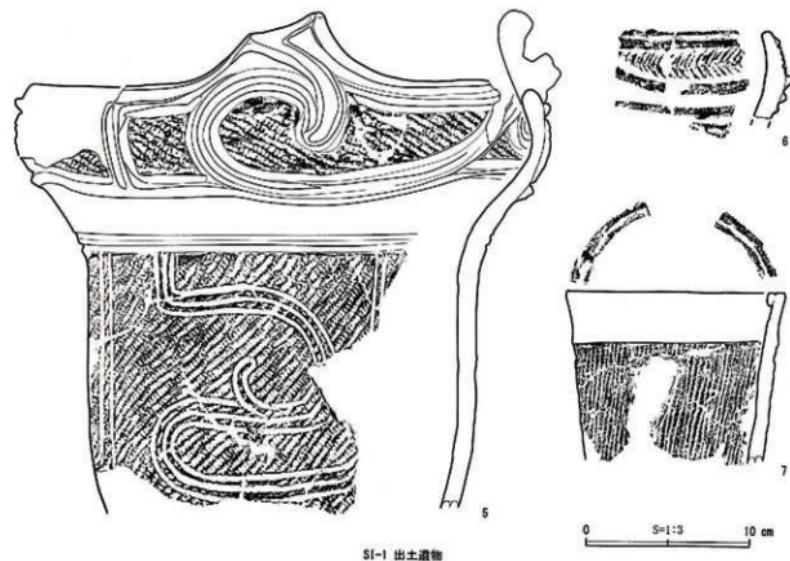
重複：SD-1、倒木に切られている。 形状・確認規模：調査区南端部中央付近に検出されたが、損壊範囲が大きく、遺構形態を判断することはできなかった。平面形状は溝状に細長く、断面は浅く凹凸の激しい不定形を成す。 確認規模：走長8.4×幅1.0～1.7m、深さ10から7cm程を測る。 走向方位：N-12° -W～N-63° -E。 覆土：ローム粒・白色粒(Hr-PP?)含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。 遺物：掲載遺物5点。いずれも倒木周辺覆土中からの出土であるが、中でも陰刻花弁文の縁釉陶器皿(70)は特出すべき出土遺物である。 所見：性格、時期とともに不明であるが、出土遺物から平安時代後期の可能性が高い。なお、試掘調査時に堅穴住居と推測された遺構は、このSX-1と思われる。

## 第6節 造構外出土遺物（遺物：第26・27図、第4表、図版9）

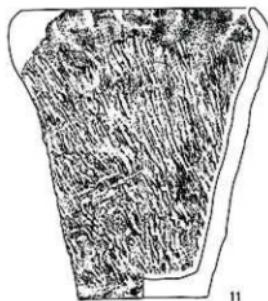
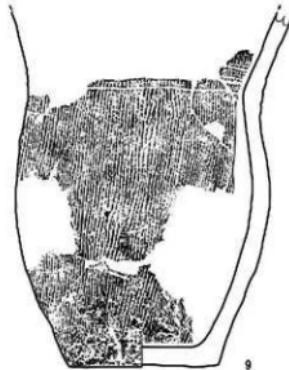
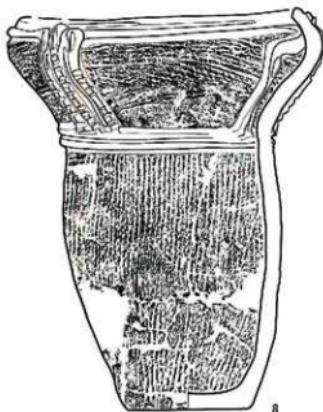
掲載遺物7点。造構に伴わないもの、出土地点の特定ができなかつたものであるが、縄文土器・石斧はSI-2付近で、土師器・須恵器・陶器類などはSD-1・2・3付近で比較的多く出土している。



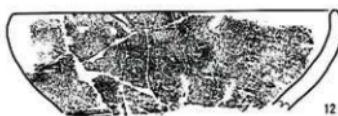
SI-1 出土遺物



第20図 SI-1-2 出土遺物



0 S=1:3 10 cm



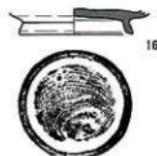
SI-2 出土遺物



SI-3 出土遺物

第 21 図 SI-2-3 出土遺物

0 S=1:3 10 cm



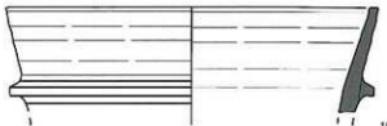
16



17



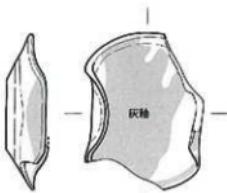
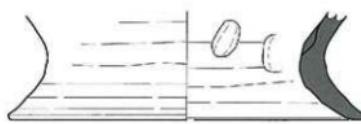
18



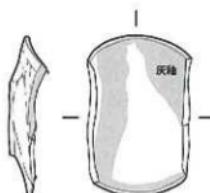
19



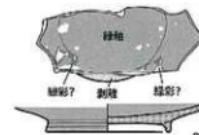
20



21



22

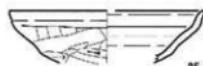


23



24

0 S=1:3 10 cm



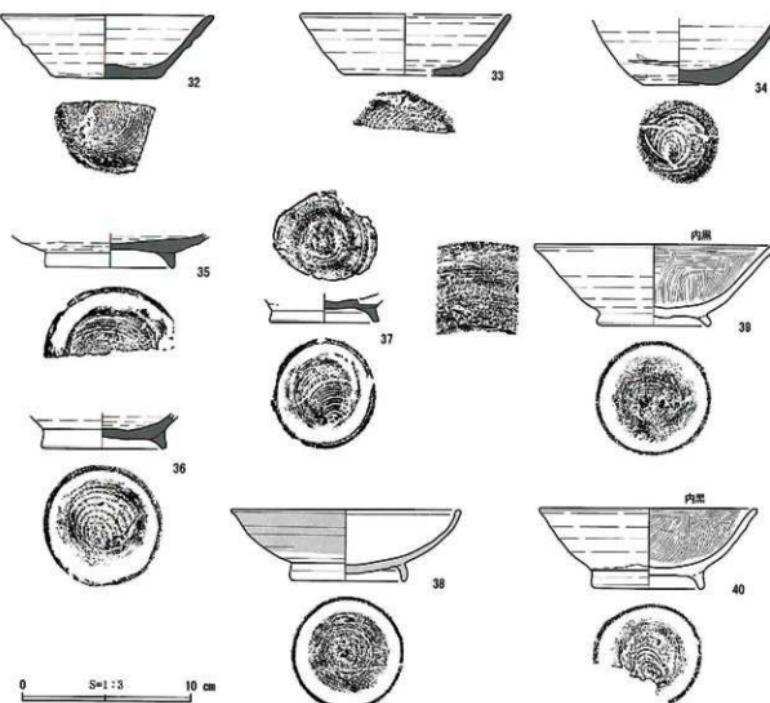
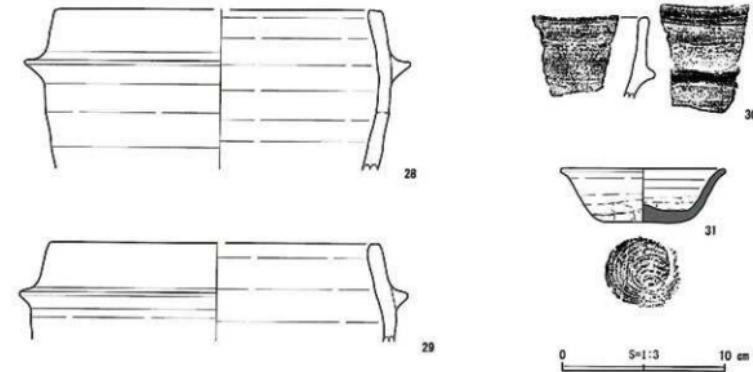
25



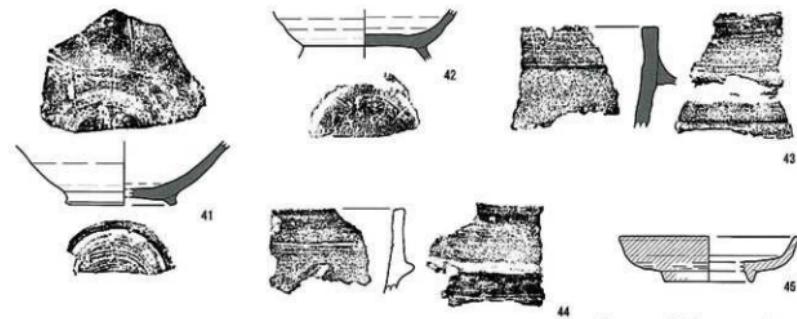
26

第22図 SI-3出土物

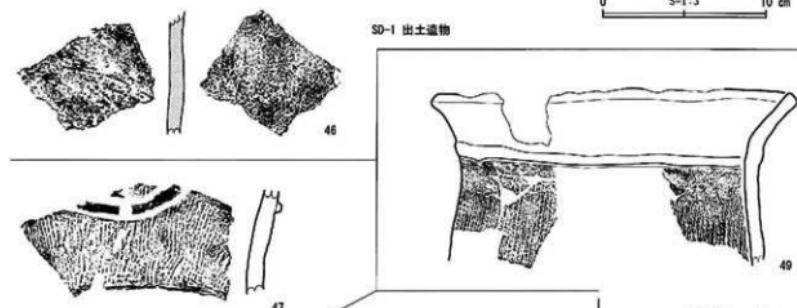
\*27は被焼行(写真撮影)



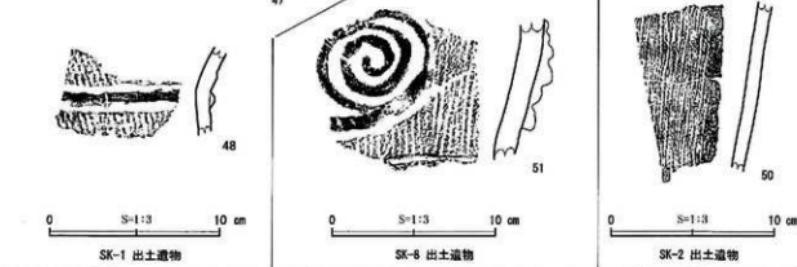
第23圖 SI-4-5 出土遺物



SD-1 出土遺物



47



48

51

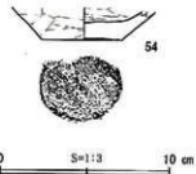


50

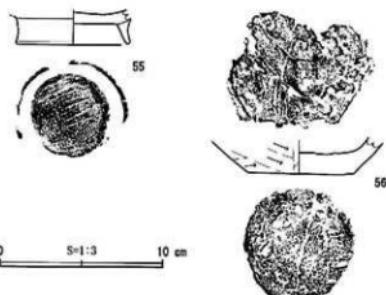


SK-13 出土遺物

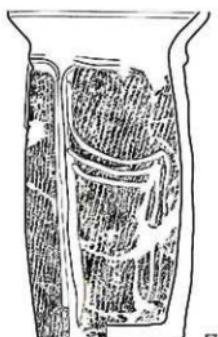
第24図 SD-1、SK-1・2・6・13 出土遺物



SK-15 出土遺物

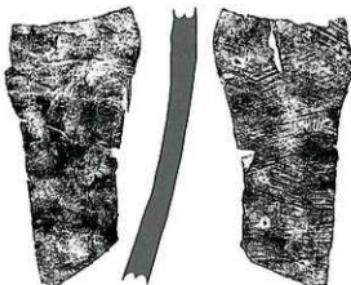


SK-17 出土遺物

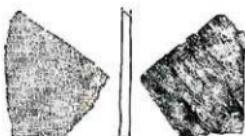


0 S=1:3 10 cm

SK-18 出土遺物

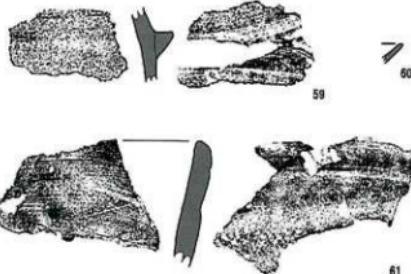


58



0 S=1:5 10 cm

62

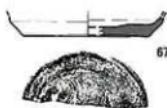


61

※ 63～66 は石製品（穿孔器類）

SK-19 出土遺物

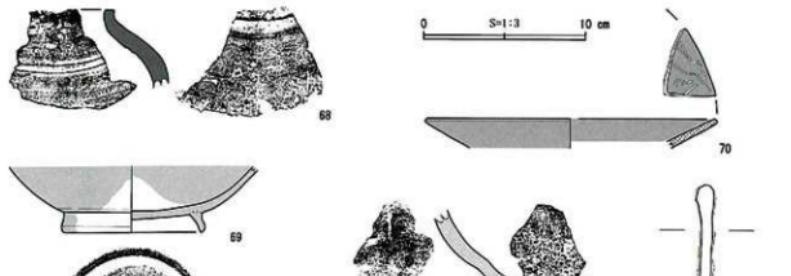
0 S=1:3 10 cm



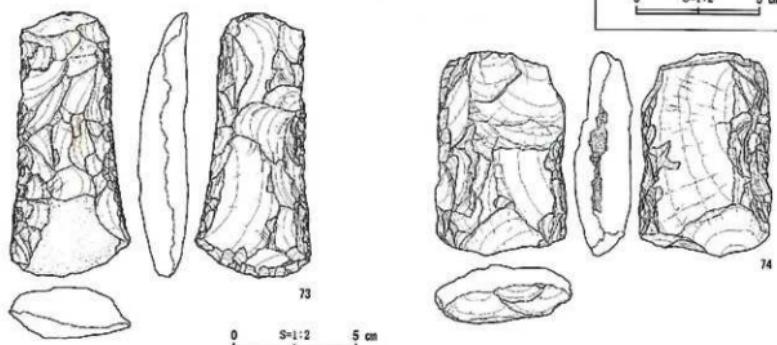
SK-20 出土遺物

0 S=1:3 10 cm

第25図 SK-15・17・18・19・20 出土遺物



SX-1 出土遺物



0 S=1:2 5 cm



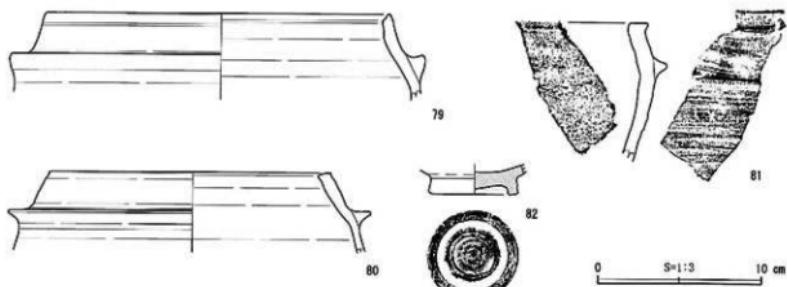
■ ガリ



0 S=1:3 10 cm

遺構外 出土遺物

第 26 図 SK-1、遺構外 出土遺物



第27図 遺構外出土遺物

第4表 出土遺物観察表

No.	遺構	種別 器種	計測値(cm)			残存	色調	胎土 焼成	内・外の特徴	注記	
			口径	底径	器高						
1	SI-1	土器 台付甕	—	—	C2.5	底～台部	外 明黄褐色 内 赤	石英・雲母・粗砂 良好	外面：ハケメ 内面：ヘラナデ 指ナデ	SI1 No. 1	
2	SI-1	土器 台付甕	—	—	C2.5	底～台部 破片	に赤い黄褐色	雲母・砂 普通	外面：ハケメ 内面：底部ヘラナデ 台部ナデ	SI1 No. 5	
3	SI-1	土器 台付甕	—	(10.9)	C4.1	台部破片	外 に赤い黄褐色 内 明黄褐色	石英・雲母・砂 普通	外面：ナデ 一部ハケメを残す 内面：ナデ	SI1 No. 1	
No.	種別 器種	計測値(cm)			内・外の特徴						
4	SI-1	石器 打製石斧	全長 <4.05> 幅 48.67 厚さ 27.23 重さ <103>g			石材：頁岩					
No.	遺構	種別 器種	計測値(cm)			残存	色調	胎土 焼成	内・外の特徴		注記
No.	遺構	種別 器種	口径	底径	器高	口部	色調	胎土 焼成	内・外の特徴		注記
5	SI-2	縄文土器 深鉢	(29.2)	—	<30.7>	口～胴部	暗赤褐色	石英・角閃石・斜長石 粗砂／良好	横帯絆帶・沈模区画文 满巻文	SI2 No. 29・ 32・36・41	
6	SI-2	縄文土器 深鉢	—	—	C6.2	口縁部 破片	に赤い青褐色	角閃石・砂 良好	外面：階級区画 縮杉沈模	SI2・SI2 No. 16	
7	SI-2	縄文土器 深鉢	(13.4)	—	C10.5	口～胴部	外 暗褐色 内 暗赤褐色	角閃石・雲母・粗砂 普通	縦条文	SI2・SI2 No. 57	
8	SI-2	縄文土器 深鉢	16.0	7.4	24.2	4/6	明赤褐色	角閃石・斜長石・粗砂 普通	縦筋横位格子・沈模区画文 口縁絆帶文・刻み目絆帶文 体部格子溝	SI2 No. 56	
9	SI-2	縄文土器 深鉢	—	9.2	C21.7	胴～底部	明赤褐色	雲母・粗砂 普通	頭部沈模3条 縦条文(單節)	SI2 No. 18・ 20・28・29・ 31・32・33	
10	SI-2	縄文土器 深鉢	—	—	16.7	頭～胴部	外 に赤い黄褐色 内 暗褐色	石英・雲母・粗砂 普通	横位刻み目絆帶・沈模区画文 满巻文	SI2 No. 19・ 20	
11	SI-2	縄文土器 深鉢	(14.4)	8.0	17.8	3/4	明赤褐色	角閃石・雲母・粗砂 普通	反燃り?	SI2 No. 13	
12	SI-2	縄文土器 深鉢	(20.0)	—	C6.1	口縁部 破片	外 暗褐色 内 暗褐色	石英・雲母・粗砂 普通	無文	SI2 No. 20	
13	SI-3	須恵器 环	12.7	6.0	3.8	4/5	に赤い黄褐色	雲母・細砂 普通	外面：体部下位指ナデ 回転糸切り 内面：底部回転ヘラナデ	SI3・SI3 No. 3	
14	SI-3	須恵器 环	(13.6)	5.0	4.5	口～底部 1/2	灰白	細砂／弱還元	回転糸切り 右回転	SI3	
15	SI-3	須恵器 环	(13.2)	(6.4)	5.0	口～底部 1/4	灰黃	雲母・石英・砂 良好／還元	付高台	SI3 No. 15	
16	SI-3	須恵器 环	—	—	(1.6)	底部	灰	長石・砂 良好	回転糸切り 付高台 右回転	SI3 No. 14	
17	SI-3	須恵器 环	—	—	<2.9>	口縁部 破片	灰白	長石・雲母・粗砂 良好	内外面：ヘラナデ	SI3 No. 36	
18	SI-3	須恵器 环	—	—	(4.8)	口縁部 後片	灰	長石・雲母・粗砂 良好	外面：口縁部? 底部 ヘラナデ 内面：ヘラナデ	SI3 No. 19	

No.	造標	種別 器種	計測値(cm)			種 存	色 調	胎 土 成 形	内・外面の特徴	注 記	
			口径	底径	器高						
19	SI-3	羽釜 須心質	(23.0)	—	<6.5	口縁部 破片	外 灰黄 内 灰白	長石・ 雲母・砂 普通／弱透元	内外面：ヘラナデ	SI3 No.24	
20	SI-3	須心器 右耳	(22.0)	—	<6.5	右側破片	外 灰黄 内 にぶい黄褐	石英・ 結晶片・岩 砂 良好／中性	外面：福部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内面：括部ヨコナデ 体部ヘラナデ 凹み2ヶ所	SI3 No.45	
21	SI-3	灰釉陶器 耳皿	(9.6)	4.2	2.6	4/5	釉：オリーブ灰 地：灰白	細砂 良好	体部指痕 底部削除糸切り 左脚軸 東海産	SI3 No.37	
22	SI-3	灰釉陶器 耳皿	(6.2)	4.6	<1.8	体～底部	釉：オリーブ灰 地：灰白色	細砂 良好	体部稍直 底部削除糸切り 左脚軸 東海産	SI3	
23	SI-3	綠釉陶器 皿	—	7.6	<1.5	体～底部	釉：オリーブ灰 地：灰白	石英・細砂 良好	底部四軒ヘラケズリ 内面：緑彩 or トナン釉滴り 東海産	SI3 No.6	
24	SI-3	土師器 小型器	(12.0)	—	<5.3	口～胴部 破片	にぶい褐	長石・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：ナデ	SI3	
25	SI-3	土師器 坪	(12.0)	—	<3.2	口～体部 破片	にぶい赤褐	角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	SI3	
26	SI-3	土師器 右台付夷	—	—	<3.7	底～台部 破片	にぶい赤褐	角閃石・砂 良好	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ 指ナデ	SI3 No.10	
No.	種類	種類	計測値(cm)			内・外面の特徴			注記		
27	SI-3	被熱石	全長 <14.0	幅 <12.0	厚さ <10.0	重さ <1,350g	石材：砂岩？		SI3 No.40		
No.	造標	種別 器種	計測値(cm)			種 存	色 調	胎 土 成 形	内・外面の特徴		注 記
			口径	底径	器高				内・外面の特徴		
28	SI-4	羽釜 土師質	(19.8)	—	<9.9	口～胴部 破片	暗灰黄	石英・チャート・粗 砂・良好	外面：ヘラナデ(毛目) ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	SI2 No.5	
29	SI-4	羽釜 土師質	(20.0)	—	<6.0	口～胴部 破片	内 橙	石英・雲母・砂 良好	内外面：ヘラナデ	SI2 No.8	
30	SI-4	羽釜 土師質	—	—	<5.0	口縁部 破片	にぶい黄褐	角閃石・雲母・砂 普通	内外面：ヘラナデ	SI4 No.2	
31	SI-4	須心器 坪	10.2	4.5	3.3	ほぼ完形	淡黄	石英・雲母・砂 良好／弱酸化	外面：体部下位ヘラナデ 底部削除糸 切り 内面：指ナデ	SI4 No.3	
32	SI-5	須心器 坪	(12.8)	(6.4)	3.9	口～底部	灰	長石・砂 良好	底部削除糸切り	SI5 No.11	
33	SI-5	須心器 坪	(13.0)	(7.6)	3.8	口～底部	灰白	石英・砂 普通	底部糸切り後、粘土塗沫	SI5 No.5	
34	SI-5	須心器 坪	—	4.6	3.9	体～底部	墨	雲母・細砂 普通／透元	外面：体部工具痕 底部削除糸切り後 外周ヘラナデ 旗巻吸着 右四軒	SI5 No.1	
35	SI-5	須心器 坪	—	(7.6)	(2.1)	体～底部	灰	砂 良好	底部削除糸切り 付高台	SI5 No.4	
36	SI-5	須心器 坪	—	7.4	(2.2)	底部	外 灰 内 灰白	石英・砂 良好／弱透元	付高台 右四軒	SI5 No.15	
37	SI-5	須心器 坪	—	6.7	<1.8	底部	灰白	長石・砂 普通	底部削除糸切り 付高台 條合痕顯著	SI5 No.8	
38	SI-5	灰釉陶器 碗	14.1	7.2	4.4	ほぼ完形	釉：灰オリーブ 地：灰白	細砂 良好	三日月高台 体部削除ヘラケズリ 左脚軸 東海産	SI5 No.3+7-19	
39	SI-5	土師器 坪	(14.8)	7.0	5.0	口～底盤 内 黒	にぶい黄褐	長石・雲母・細砂 良好	外面：ヨコナデ 指跡底 内面：ミガキ 内黒	SI5 No.5	
40	SI-6	土師器 坪	(12.7)	6.5	4.7	口～底部	外 根 内 黒	長石・雲母・細砂 良好	外面：ヨコナデ 底部ヘラケズリ 内面：ミガキ 内黒	SI5 No.10	
41	SD-1	須心器 坪	—	(6.4)	4.0	体～底部	灰黄	雲母・細砂 良好／弱酸化	底部糸切り 付高台	SD1	
42	SD-1	須心器 坪	—	—	(3.2)	体～既底	灰	長石・砂 良好	底部糸切り 付高台	SD1	
43	SD-1	羽釜 須心質	—	—	(6.2)	口～胴部 破片	灰白	石英・雲母・砂 良好／中性	内外面：ヘラナデ	SD1	
44	SD-1	羽釜 土師質	—	—	(5.2)	口～胴部 破片	巻	石英・雲母・砂 良好	内外面：ヘラナデ	SD1	
45	SD-1	陶器 碗	(11.0)	(5.4)	2.8	口～底盤 内 黒	底：淡黄 邊：灰黄	細砂 良好	付高台	SD1	
46	SD-1	陶器 甕	—	—	(7.5)	体部破片	外 明塵斑 内 褐灰	長石・石英・粗砂 良好／透元	外面：鉄塵 内面：自然積 膏滑	SD1	

No.	造構	種別 器種	計測値(cm)			残存	色調	胎土 焼成	内・外観の特徴	注記
			口径	底径	器高					
47	SK-1	陶文土器 深鉢	—	—	<6.4)	胴部破片	赤褐	結晶品岩・石英・粗 砂・普通	陸善文 単節捺条体	SK1 No.2・3
48	SK-1	陶文土器 深鉢	—	—	<5.5)	胴部破片	黒	角閃石・砂 普通	陸善文 単節	SK1
49	SK-2	陶文土器 深鉢	21.6	—	10.9	口～胴部	暗褐色	石英・角閃石・粗 砂・普通	口緑無文 線条体	SK2 No.1・2・ 5・6・8
50	SK-2	陶文土器 深鉢	—	—	<10.5)	胴部破片	黒	石英・富鉄・粗 砂・普通	甲面捺条体	SK2 No.2・4
51	SK-8	陶文土器 深鉢	—	—	<8.6)	胴部破片	黒褐	石英・角閃石・粗 砂・普通	湯善強善文 单節捺条体?	SK8
52	SK-13	須直器 坪	(10.6)	(5.0)	3.5	口～底部	灰褐	石英・雲母・砂 普通・土師質	外面：口緑ヨコナダ 体部ヘラナダ 底部凹軸系切り 内面：ヨコナダ	SK13
53	SK-13	羽釜 土師質	—	—	<6.2)	口部破片	灰黄	石英・チカート・砂 普通	外表面：ヘラナダ	SK13
54	SK-15	土師器 甕	—	4.6	<1.9)	体～底部	黄褐	石英・角閃石・鈣石・砂 砂・普通	外面：体部ナダ 底部ヘラナダ 内面：ナダ (ミガキ状)	SK15
55	SK-17	土師器 坪	—	7.0	<2.1)	底部破片	にぶい黄	石英・角閃石・鈣石・砂 砂・良好	外面：底部・内面：ヘラナダ	SK17
56	SK-17	土師器 甕	—	6.6	<2.3)	底部破片	にぶい黄	石英・結晶品岩・粗 砂・良好	外面：ヘラナダ 内面：指ナダ	SK17
57	SK-18	陶文土器 深鉢	(12.0)	8.6	20.5	3/4	外 にぶい褐 内 黒褐	石英・角閃石・粗 砂・普通	口緑無文 茄部傾位隆済区画文 体部 横垂懸垂文 犹餘文 楠条体	SK18 No.1
58	SK-19	須直器 甕	—	—	<17.0)	胴部破片	灰	漂砂 良好	外面：平行叩き 内面：ヘラナダ	SK19
59	SK-19	羽釜 須直質	—	—	<6.6)	胴部破片	灰白	長石・砂 普通	外表面：ヘラナダ	SK19
60	SK-19	灰釉陶器 瓶	—	—	<1.2)	口部破片	釉：灰オリーブ 地：灰	微細砂 良好		SK19
61	SK-19	瓦質 甕	—	—	<7.8)	口部破片	灰	角閃石・鈣石・砂 砂・良好	内面：ナダ	SK19
62	SK-19	平瓦	<12.9)	<10.5)	1.0	破片	灰白	富母・砂 良好	上面：布目 下面：ヘラナダ	SK19
No.	種別	器種	計測値(mm)			内・外観の特徴			注記	
63	SK-19	石臼	全長 <80.8)	幅 <60.4)	厚さ <70.3)	重さ <380g	石材：蛭石		SK19	
64	SK-19	砥石	全長 <44.1)	幅 <13.9)	厚さ <13.4)	重さ <1,320g	石材：蛭石 石磨耗用		SK19	
65	SK-19	石斧?	全長 <11.3)	幅 <9.0)	厚さ <8.8)	重さ <1,480g	石材：安山岩		SK19	
66	SK-19	石皿	全長 <20.8)	幅 <20.7)	厚さ <7.1)	重さ <5,180g	石材：輝石安山岩		SK19	
No.	造構	種別 器種	計測値(cm)			残存	色調	胎土 焼成	内・外観の特徴	
No.	造構	種別 器種	口径	底径	器高	内・外観の特徴			注記	
67	SK-20	須直器 坪	—	7.2	<1.3)	底部破片	灰	砂 良好	底部凹軸系切り 右回転	SK20
68	SK-1	須直器 甕	—	—	<4.8)	口～底部 破片	灰	長石・砂 良好	外面：ヘラナダ 自然堆 内面：ヘラナダ	SK1
69	SK-1	灰釉陶器 瓶	—	8.6	<4.1)	体～底部	釉：オリーブ黄 地：灰白	長石・細砂 良好	底部回転ヘシカズリ 付高台 左回転	SK1
70	SK-1	壁掛陶器 皿	(18.0)	—	<1.8)	口部破片	釉：オリーブ灰 地：灰白	細砂 良好	内面：陰刻花文 東海産	SK1
71	SK-1	燒結陶器 甕	—	—	<4.7)	肩部破片	外：褐色 内：オリーブ黄	長石・少隕・砂 普通	外面：自然釉 内面：ヘラナダ	SK1
No.	種別	器種	計測値(cm)			内・外観の特徴			注記	
72	SK-1	鉛釘	全長 <45)	幅 6	厚さ 5	重さ <2,760g	角釘		SK1	
73	造構外	打製石斧	全長 108.71	幅 47.39	厚さ 20.27	重さ 107g	石材：黑色頁岩		一括北	
74	造構外	打製石斧	全長 83.98	幅 54.09	厚さ 23.48	重さ 137g	石材：黑色頁岩		一括北	
75	造構外	打製石斧	全長 <54.26)	幅 42.39	厚さ 17.94	重さ <62g	石材：黑色頁岩		一括北	
No.	造構	種別 器種	計測値(cm)			残存	色調	胎土 焼成	内・外観の特徴	
No.	造構外	陶文土器 深鉢	—	—	<6.3)	胴部破片	にぶい黄	石英・角閃石・砂 普通	沈豫文 単節調文充填	一括北東
77	造構外	須直器 坪	(12.3)	(5.4)	4.5	口～底部 破片	灰灰	長石・砂 良好	底部凹軸系切り	一括北

No.	遺構	種別 器種	計測値(cm)		残存 器高	色調	胎土 焼成	内・外面の特徴	注記
			口径	底径					
78	遺構外	羽釜 突起突 起	—	—	<9.7	側部破片	黄灰	長石・雲母・砂 良好	外面：波状文 —括
79	遺構外	羽釜 土師質	(21.2)	—	<6.3	口～側部 破片	橙	南断骨針・石英・角 閃石・砂／普通	内外面：ヘラナデ —括北
80	遺構外	羽釜 土師質	(17.0)	—	<4.9	口～側部 破片	明赤褐	石英・空母・粗砂 良好	内外面：ヘラナデ —括
81	遺構外	羽釜 土師質	—	—	<8.5	口～側部 破片	外にぶい黄 内 橙	結晶片岩・石英・粗 砂／普通	内外面：ヘラナデ —括
82	遺構外	陶器 碗	—	5.6	<1.9	底部破片	釉：オリーブ 底：にぶい黄 胎：良好	粗砂 高台端部～底部無釉 灰褐色 美品焼	—括北東

## 第5章　まとめ

本調査は限られた範囲の調査であり、遺跡の全容を把握するには至っていないが、隣接する「井野高縄遺跡」(平成4年、市教委発掘調査)で9世紀後半と考えられる住居が2軒確認されていることからも微高地に集落が広がっていることは容易に想像できる。とは言え、微高地端部に立地し、各時期ともに集落中心部からは離れた場所に位置しているであろうこと、攪乱による遺構の損傷が激しいことから得られた情報は限られたものであったが、周辺の調査事例が少ないので貴重な調査実績を示すことができたと言えよう。

図1に時期判断可能な遺構を図示したが、溝(SD)・土坑(SK)・ピット(P)のほとんどは出土遺物もなく、覆土も縄文時代・古墳時代・平安時代と時期差が大きいにもかかわらず、特徴的な堆積状況が認められないことから時期判断はできなかった。よって、時期別に形態的特徴を把握することも難しく性格についても不明である。しかし、本調査で得られた少ない情報の中でも、隣接地域では確認されていなかった縄文時代・古墳時代の住居が検出されたこと、SI-3・SX-1から縄釉陶器が出土したことは大きな成果である。特に縄釉陶器は非日常的食膳具であることが指摘されており、遺跡・遺構の特殊性が窺える貴重な出土遺物である。

群馬県内の縄釉陶器については、神谷佳明氏によって『縄釉陶器にみる上野国』(『研究紀要19』群埋文2001)としてまとめられており、すでに県内の資料集成・分析結果は示されている。そこで、本遺跡出土の縄釉陶器について若干の検討を加えまとめたい。

本遺跡で出土した縄釉陶器は2点である。SI-3出土縄釉陶器皿は底部破片で不明確ではあるが、内面に線彩、または釉溜りが認められ、SX-1出土縄釉陶器皿は口縁部破片で印刻花文が描かれている。県内の縄釉陶器出土事例は100遺跡、1000点以上が報告されているが、印刻花文が描かれたものは13遺跡から36点、線彩が施されたものは3遺跡から3点が報告されているのみである。これは前述の『縄釉陶器にみる上野国』に記載されている「表2. 県内出土縄釉陶器」から読み取れるデータであり、総点数の割合からすると印刻花文は0.4%、線彩は0.03%しかなく、両方ともに出土している報告事例は今のところ本遺跡のみである。そこで、県内の縄釉陶器について概観しておく必要があると考え、「表2. 県内出土縄釉陶器」を元に大まかな分布状況図(図2)を作成した。

まず、県内の縄釉陶器は分布図が示すとおり遺跡数・出土量において国府城、及びその周辺を含めた群馬郷に比定される地域に集中していることは明らかであり、すでに神谷氏によって指摘されているとおりである。特に国府城に位置する天神遺跡(A)、北に位置する清里陣場遺跡(B)、田口上田尻・下田尻遺跡(C)、西に位置する三ツ寺大下IV遺跡(D)では100点を超える縄釉陶器が出土しており、

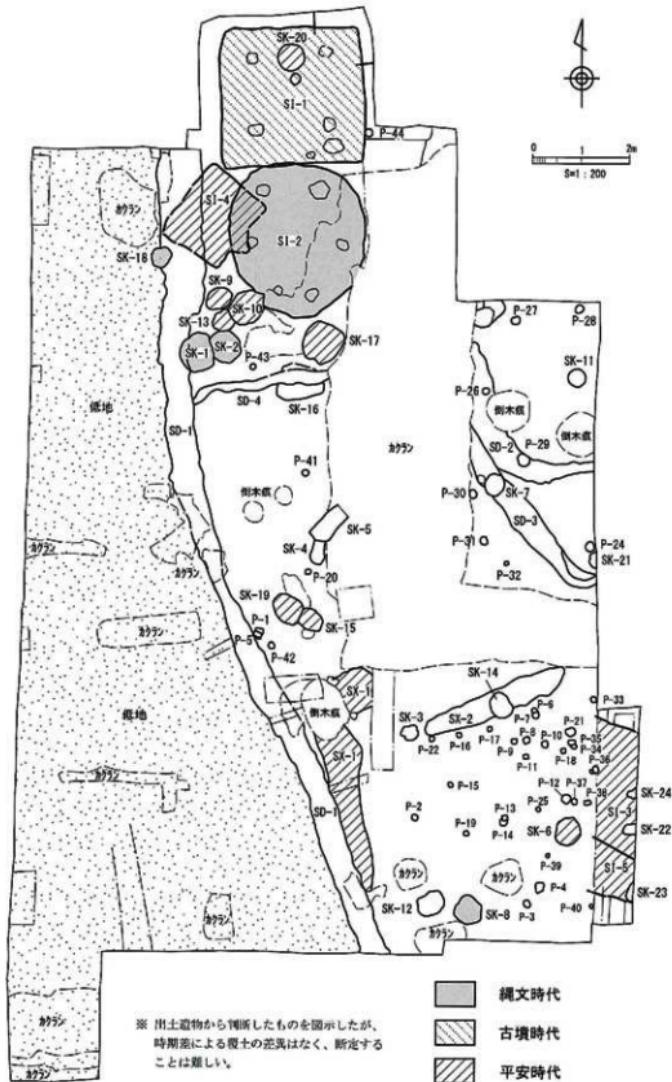


図 1. 時期別道構全体図

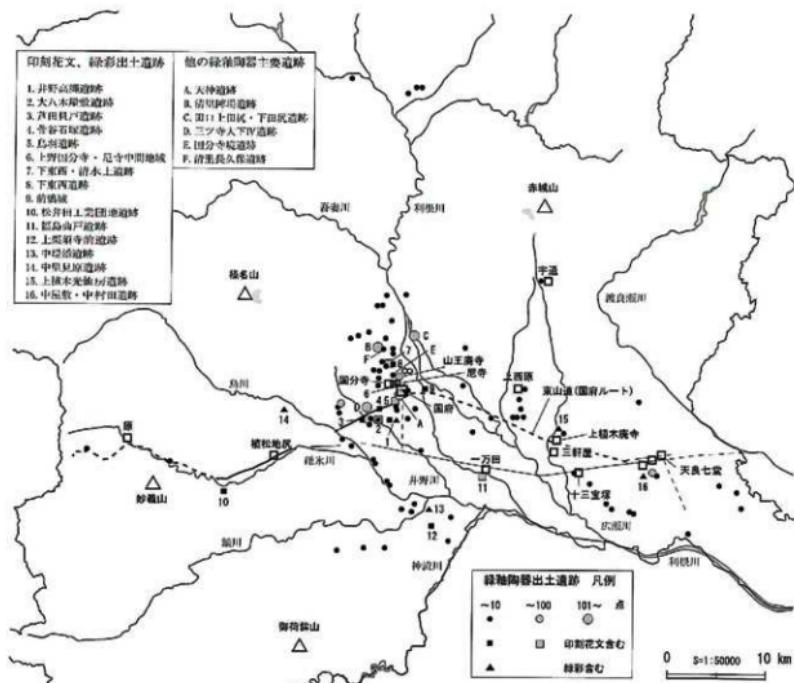


図2. 緑釉陶器分布図

古代群馬郡内における有力者・富裕層の存在が示唆される遺跡である。他にも山王廟寺付随集落と考えられている国分境遺跡(E)、富豪層の墓域と考えられている清里長保遺跡(F)、官営工房と考えられている鳥羽遺跡(5)、「八木院」に相当する官衙遺構と比定されている大八木屋敷遺跡(2)などがある。本遺跡は古代群馬郡の南端部に位置すると考えられ、前述した遺跡と近接する地域にある。

次に、これもすでに指摘されていることではあるが、県内全域に目を向けると官衙・寺院遺跡周辺から出土する傾向が窺え、特に勢田郡衙か寺に伴う館か豪族居館と考えられている上西原遺跡、及びその周辺、上植木庵寺周辺、新田郡衙に比定される天良七堂遺跡周辺など、いずれも出土量は少ないが、各郡の拠点地域から出土する傾向を示している。また、鍋川と井戸川が合流する地点にも出土遺跡が集中しており、緑野郡の拠点地域にあたる可能性が考えられる。

最後に、印刻花文・緑釉緑彩の分布状況を見ると、印刻花文は本造跡(1)、大八木屋敷遺跡(2)、芦井戸戸門遺跡(3)、菅谷石塚遺跡(4)、鳥羽遺跡(5)、上野国分寺・尼寺中間地域(6)、下東西・清水上遺跡(7)、下東西遺跡(8)、前橋城(9)の古代群馬郡群馬郡と八木郷に集中し、以外では松井田工業団地遺跡(10)、福島曲戸遺跡(11)、上栗須戸前遺跡(12)から出土している。緑釉緑彩は本造跡、中堤添遺跡(13)、中里見原遺跡(14)、上植木光仙房遺跡(15)、中屋敷・中村田遺跡(16)

から出土している。これは前述の縁軸陶器全体の分布状況とほぼ同じ傾向を示しているが、八木郷からの出土が比較的高いことが見て取れる。また、出土量が少ないと断定することは難しいが、印刻花文は県西部に、縁軸縁彩は県東部に分布する傾向が窺える。本遺跡からはその両方が出土し、緑野郡に比定される地域でも、印刻花文出土の上栗須寺前遺跡と縁軸縁彩出土の中堤添遺跡は近接する位置関係にある。つまり、大胆な仮説ではあるが、古代群馬郡を拠点に流通経路が大きく東西に分かれていた可能性があり、縁軸陶器が非日常的な食膳具であることを加味すると、本遺跡はその拠点地域内、あるいは隣接地域に位置する富裕層が居住する集落と考えられる。

以上が、今回の調査における「まとめ」として示せる成果である。内容的には不十分と思われるが、この地域を検討する上で貴重な資料を得られたことは間違いないであろう。今後、さらに詳細な資料と周辺遺跡を加えた分析が行われることを期待しつつ終わりとする。

末筆ながら縁軸陶器については神谷佳明氏からご指導・ご助言を賜った。また、桜岡正信・永井智教氏からもご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

#### ※引用参考文献

- 神谷佳明『縁軸陶器にみる上野国』『研究紀要 19』群埋文 2001  
田口昭二『美濃窯の灰釉陶器と縁軸陶器』『月刊考古学ジャーナル No. 211』ニューサイエンス社 1982  
井上喜久男『東国官衙遺跡にみる三形・縁軸陶器』『月刊考古学ジャーナル No. 475』ニューサイエンス社 2001  
神谷佳明・三浦京子・他『下東西遺跡』群埋文 1987  
相京健史・他『清里・長久保遺跡』群埋文 1986  
坂井隆・他『小八木志志貝戸遺跡群 2』群埋文 2001  
原雅信・石川雅俊『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』群埋文 2002  
桜岡正信・神谷佳明・他『田口上田尻遺跡・田口下山尻遺跡』群埋文 2012  
近藤雅順・阿久沢真一『元絶粒苔海遺跡群(8)』前橋埋文 2007

# 写真図版



SI-1 全景 南から



SI-1 炉 南から



SI-2 全景 南から



SI-2 出土遺物 No. 8



SI-2 出土遺物 No. 11

図版 2



SI-2 遺物出土状況 北東から



SI-3-5 全景 西から



SI-3 遺物出土状況



SI-3 遺物出土状況



SI-3 遺物出土状況



SI-3 遺物出土状況



SI-3-5 挖り方全景 西から



SI-4 全景 西から



SI-4 カマド 西から



SI-4 挖り方全景 西から

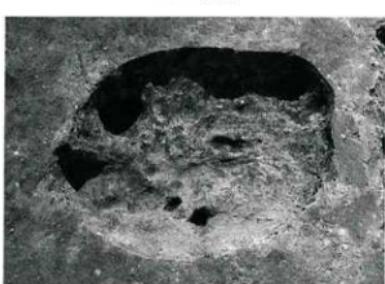
図版 4



SD-1 全景 北から



SD-1 全景 南から



図版 6



SK-12 北から



SK-15 北から



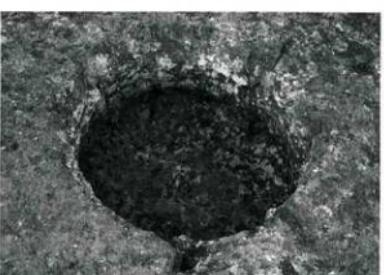
SK-15-19 北西から



SK-16 西から



SK-18 南から



SK-20 南から



SK-1 北から



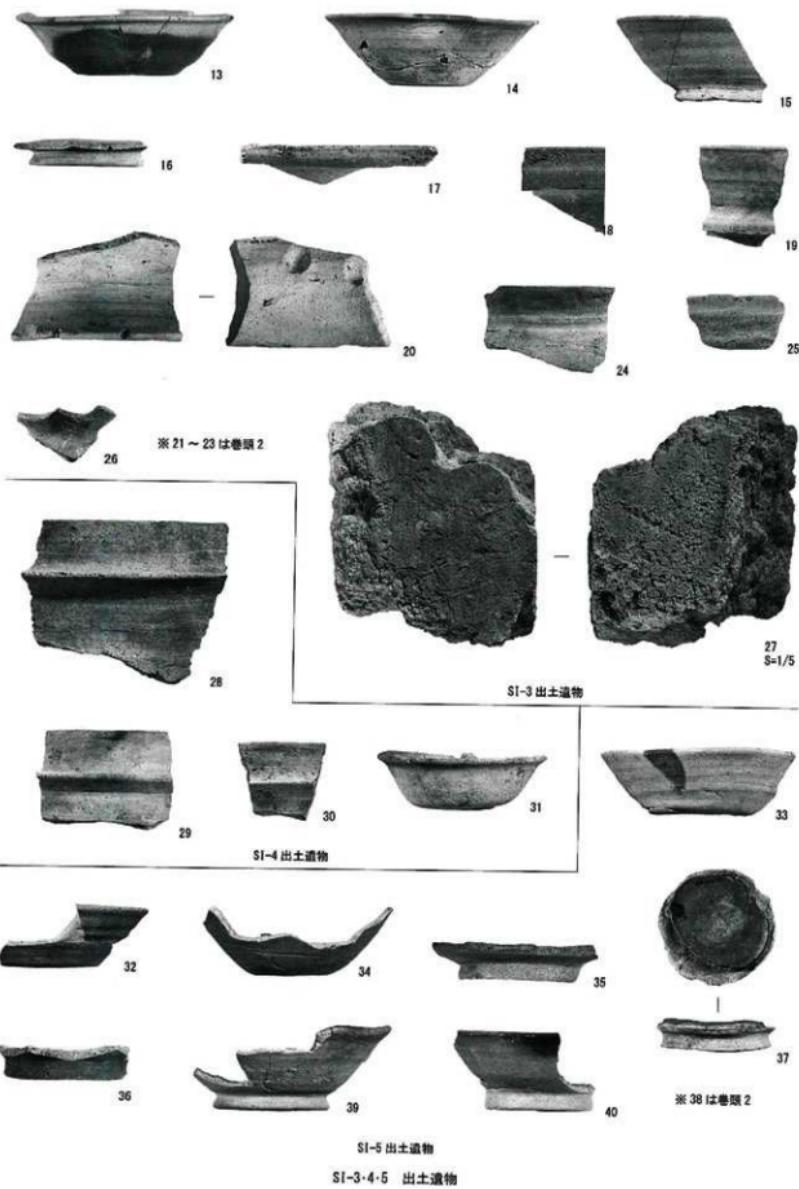
作業風景 (SI-3-5)

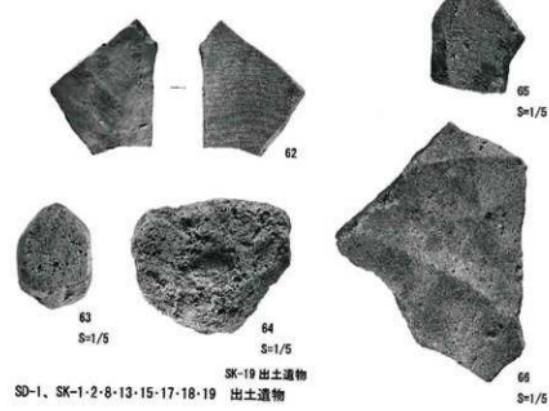
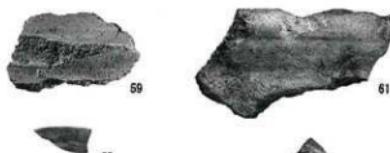
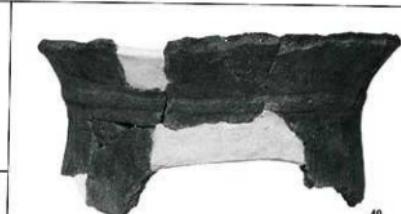
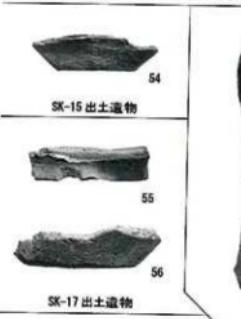
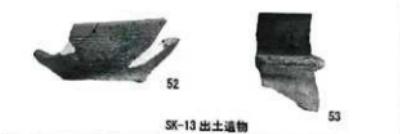


SI-2 出土遺物

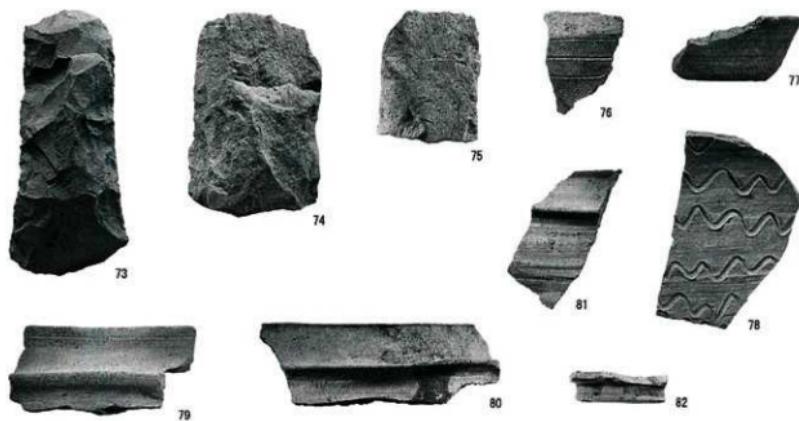
SI-1·2 出土遺物

図版 8





図版 10



## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	いのたかなかわいせき 2					
書名	井野高岡遺跡 2					
副書名	特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査					
巻次	—					
シリーズ名	高崎市埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第366集					
編著者名	笠原仁史					
編集機関	有限会社歴史考房まほら					
編集機関所在地	〒372-0815 群馬県伊勢崎市東上之宮町1248-3					
発行日	2016年3月31日					

所収遺跡名	フリガナ	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
井野高岡遺跡2	たのたかなかわいせき 2	102020	651	36° 21' 39"	139° 01' 17"	2015. 9. 27 ～ 2015. 11. 5	775.80 m <sup>2</sup>	特別養護老人 ホーム建設
355-1・2・3・4								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
井野高岡遺跡2	集落	縄文時代 古墳時代 平安時代 時期不明	堅穴建物 土坑 堅穴建物 土坑 井戸 性格不明 溝 土坑 ピット 井戸 性格不明	1軒 4基 1軒 3軒 5基 1基 1基 4条 13基 42基 1基 1基	縄文土器・石器 古式土師器 土師器・須恵器・灰釉陶器・ 縁物陶器・瓦・石製品・鉄釘 灰釉陶器耳皿 縁物陶器印刻花文皿 陶器	中期後半

高崎市埋蔵文化財調査報告書 第366集

## 井野高繩遺跡2

平成28年3月25日 印刷

平成28年3月31日 発行

発行 高崎市教育委員会 文化財保護課

群馬県高崎市高松町35番地1

電話 027-321-1292

印刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町67番地

電話 027-251-1212